

## 国際社会学部

# 吉崎知典

YOSHIZAKI Tomonori

国際関係コース

国際政治学、安全保障論



## 国際政治と安全保障

専門は同盟をめぐる国際政治学です。たとえば次の問いにどう答えるべきでしょうか。同盟は国際秩序を安定化させるでしょうか、それとも不安定化させるでしょうか？

この問題について多様な解釈があります。2022年2月、ロシアのプーチン大統領はNATO拡大への対抗手段として自らのウクライナ侵攻を正当化しました。ここでは同盟の拡大こそ戦争原因と位置付けられました。しかし、同盟は国家安全保障を確保するものとして広く受け入れられています。例えば日米同盟は、流動化する北東アジアで抑止と防衛を確保する手段として期待されています。「核の傘」をめぐる日本の戦後史で多様な議論を生みましたが、今では広く受容されています。

私が担当する講義とセミナーでは＜導入講義⇒班での討議⇒政策シミュレーション＞という3段階を通じて、国際秩序における同盟の役割について疑似体験してもらい、受講生に判断してもらいます。

これに加えて国際関係コースでの授業は、日米安保、インド太平洋地域の安保協力、NATO(北大西洋条約機構)を中心とした歴史と理論を扱います。また大学院では留学生を主対象とした平和構築のセミナーも担当します。

## 研究紹介

現在取り組んでいる研究書では、冷戦後のヨーロッパを次の3つの時期区分から分析しています。

第1期は、米ソ冷戦が終結した約10年間を米国一極中心の秩序ととらえ、旧ユーゴ内戦を事例として取り上げます。当時、国連平和維持活動（UNPKO）には、日本を含めたグローバルな対応が求められますが、NATO（北大西洋条約機構）が危機管理を新たに担当し、空爆を本格化します。「同盟拡大」の始まりです。

第2期は9.11後の世界テロ戦争です。同盟や有志連合の活動がグローバルに拡大し、アメリカはイラクやアフガニスタンでの「長い戦争」にほぼ10年間、忙殺されます。この間、中露の戦略的パートナーシップが進化し、国際秩序が変化し始めます。

第3期として2014年のクリミア危機に象徴される紛争の「グレーゾーン化」が進行します。それが2022年にはロシアのウクライナ侵攻によってヨーロッパ秩序が急変します。ポスト冷戦の終焉です。この3時期の研究分析を通じて同盟の将来を展望します。



## 担当授業

- 国際政治概論（国際秩序と同盟）
- 国際政治概論（日本の安全保障政策史）
- 平和・紛争論（国際政治における戦争と平和）
- Evolution of Nuclear Strategy（Peace and Conflict Studies, PCS）
- Sino-Japan Relations（PCS）
- Global Campus（with USA, UK, India, Pakistan, ASEAN countries）

## 出版物

- 『NATO(北大西洋条約機構)を知るための71章』
- 『冷戦後のNATO: “ハイブリッド”同盟への挑戦』
- 『平和構築における治安部門改革』
- 『世界に向けたオールジャパン』
- 『NSC（国家南前保障会議）の研究』
- 『戦争—その展開と抑制』

## 国際社会学部

# 国際政治における 戦争と平和を研究するゼミ

### どのようなゼミか

私のゼミでは、国際関係を考えるツールとして「政策シミュレーション」を使います。聞きなれないかと思いますが、それは「考えられないことを考える」思考ゲームでして、海外の大学院や研修で幅広く取り入れられています。

私たちの世界では予想を超える危機がたくさん起こります。この数年間に起こったことを思い出してください。2020年春にコロナ感染拡大によって各国は国境を次々と閉鎖しました。海外渡航や交流も大幅に制限され、国際社会の「ソーシャル・ディスタンス」が広がりました。翌21年夏にはアフガニスタンの首都カブールが陥落し、平和構築が頓挫しました。そして2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻によって世界は一変しました。このように、私たちはそれまでの「常識」が通用しない時代を生きています。

「複雑怪奇」ともいわれる国際社会をどうとらえるべきでしょうか。ゼミでは、1つの試みとして、政策シミュレーションを皆さんに体験してもらい、「考えられないこと」への適応力を高めてもらえればと思っています。

希望者は、英語を使って東外大の留学生と一緒にゲームをしたり、海外の大学とオンラインでシミュレーションもしましょう。



(上の写真は、ベトナム「戦争博物館」の入り口です。米軍から奪った戦車、撃墜した航空機を一番目立つところに展示しているのは、なぜだと思いませんか?)



旧ユーゴスラビアで激しい対立の末に「分離・独立」を果たしたコソボ。今は、首都プリシュティナにコソボ治安部隊省が設立されている。

### 卒論

- アメリカの同盟政策における基地の位置づけ (仮)
- フランス対外政策における「独自性」と「同盟」 (仮)
- バングラデッシュの教育と国際関係 (仮)

### おススメの本

- 高坂正堯『国際政治：恐怖と希望』
- E. H. カー『危機の二十年：理想と現実』
- ルイス・ハレー『歴史としての冷戦』
- ヘドリー・ブル『国際社会論：アナーキカル・ソサイエティ』